

---

# 俺の名前は山田武蘭。

城田ツカノ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

俺の名前は山田武蘭。

### 【Nコード】

N5354Z

### 【作者名】

城田ツカノ

### 【あらすじ】

あらすじの冒頭に「俺の名前は」と入れると誰も中身を見ないという。しかしタイトルになら……そんな作者の狡猾な考えと短い駄文が詰まった学園モノ。

## 一話（前書き）

飽きっぽいなら初めから連載するな、なんてコメントも大歓迎です。

## 一話

「　　です、よろしく願います」

杉井高校1年B組の周囲は苦笑に包まれた。中には隣とひそひそと話している奴もいる。この反応にはもう慣れていた。当然だろう、と俺自身も思う。笑わないほうがおかしいのだ、きつと。

小学校入学したての頃はまだよかった。周りからは「かつこいい名前だね」とか「羨ましいなあ」などと声を掛けられた。そういつてくれたのは同級生と一部の良心的な先生のみだったが。学年が上がるにつれ、次第にその言葉は薄くなっていった。俺の名前を呼ぶとき誰もがニヤニヤとした笑いを浮かべるようになり、他学年の生徒とすれ違った後は必ず小さな笑い声が聞こえた。その理由は明白だったが俺は深く考えないことにして学校生活を続けた。

しかし……はつきり自分と他人の違いを理解したのは中学に入ったとき。

入学式では生徒全員の名前を教師が一人ひとり呼んでいき、返事をしなければならぬ面倒なものだったが、それは途中までは順調に進んでいた。

俺の番。

「山田……えーと、ふら…ん？　山田武蘭」

「はい」

その瞬間、どよっという波紋が全体に広がった。立ち上がって返事

をした俺を誰もが見つめ、そして隣の奴と話し出した。「フランクでなんだよ」「だせえ」「可哀想……」  
そんな声が聞こえてきて、おれは耳を押さえ叫びだしたい衝動を必死にこらえ着席した。椅子のガタンという音がやけにうるさく響いた。

……教室での出来事はどうか省かせてほしい。あれは思い出すだけで吐き気を催す。正直思いつくのもツライ。想像にお任せしておきたい。

（嫌なこと思い出した……トイレ行きたい）  
俺は周囲の音を遮断するのをやめ、そつと座って迫りくる吐き気と一人奮闘した。

（エリア移動）

キーンコーンカーンコーン

お約束のチャイム音を聞きながら下駄箱の扉を開ける。タイミングが合うとなんかすつきりした気持ちになった。  
靴を取出し地面に投げる　と何かが靴から飛び出た。白紙の、ノートをちぎった手紙のようだった。

嫌な予感しかない。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5354z/>

---

俺の名前は山田武蘭。

2011年12月18日00時48分発行